西新井税務署長賞

「島根県と東京都を比べて気づいた税金の役割」

足立区立　第十四中学校
三年　石田　杏

私は昨年、島根県から東京都へ引っ越してきた。その中で同じ日本でありながら、生活環境に大きな違いがあることがわかった。特に公共施設の数と高校の選択肢の多さに驚いた。図書館や公園などが身近に整備されており、日常的に利用しやすい環境であった。また、受験生のため高校について調べた際に、普通科だけでなく専門学科など多様な学科を持つ学校が多く、自分に合った学校を選びやすい状況であることが分かった。島根県では高校の数が限られており、数の差がとても大きく感じられた。この背景にある要因として税金や財政の仕組みに関心を持ち、調べることにした。東京都は日本で最も人口が多く、多くの企業が集まる都市である。そのため住民税や法人税などの税収が多く、全国的に財政規模が大きい自治体である。集められた税金は福祉と保健、教育などに多く使われたり、道路や鉄道などの交通整備、公共施設など幅広い分野に活用されている。実際に生活する中で、子どもや高齢者を対象にした医療費助成制度があったり、予防接種では低い負担や無料で受けられる助成があったりと安心して生活を送ることができる。また電車の本数が多く、移動がとても便利で公園や図書館などの公共施設も充実していると感じた。一方、島根県は人口が少なく高齢化も進んでいる。そのため、東京都ほど税収は多くない。令和八年度当初の島根県の歳入予算の自主財源は

三割程で少なく、自主財源の主なものは県税である。しかし自主財源が少なくても医療や福祉、学校、道路整備など県民の生活に必要な行政サービスは続けなければならない。そのため地方交付税などの依存財源がとても重要な役割を果たしている。島根県歳入予算の七割程が依存財源である。この地方交付税により税収が少ない地域でも必要な行政サービスを維持できるようになっている。この仕組みがあることで、日本のどこに住んでいても安心して暮らせる社会が支えられていることを知った。私は実際に島根県と東京都の両方で生活したことで、それぞれに良さがあることを実感した。東京都は交通が便利で、病院や買い物ができる場所も多く、学校選択も豊富で生活しやすい環境が整っている。一方、島根県は自然豊かで人とのつながりが温かく、落ち着いた生活ができる魅力がある。財政状況は違っても、どちらも住民が安心して暮らせるように税金が使われていることは共通している。今回調べてみて、私は税金は単に集められるお金ではなく、私達の生活を支える大切なお金だということを改めて感じた。東京都のように税収が多い地域がある一方で、地方交付税によって全国の地域がお互いに支え合う仕組みがあることは、日本の大切な制度だと思った。私も税金を納める立場になった時、税金の使われ方に関心を持ち、自分の暮らしとのつながりを考えていきたい。